

アオホオズキ *Physalistrum japonicum* (Franch. et Sav.) Honda

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 13。自然度の高い森林に依存する植物で、愛知県では個体数が少ない。散発的に出現するためどの区画でも絶滅と断定しにくい、最近見かける機会が著しく減少しており、絶滅危惧ⅠB類と評価する方が適切かもしれない。

【形態】

多年生草本。茎は柔らかく、まばらに分枝し、高さ 30~60cm になる。葉は互生し、長さ 0.5~1.5cm の柄があり、葉身は長楕円形、長さ 5~12cm、幅 1.5~4cm、先端は鋭尖頭、基部は次第に細くなり、辺縁は全縁で短毛がある。花期は 6~7 月、葉腋に下向きに 1~2 個の花をつけ、花冠は淡緑色、広鐘形で浅く 5 裂し、直径約 1.5cm である。果実は液果で楕円形、淡緑色、長さ 1~1.3cm、幅 0.7~1cm、がくは果時にやや扁平なつぼ状となり、緑色で長さ 1.3~2cm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山 (小林 48073, 1993-9-19)、2 豊根 (小林 37490, 1992-5-31)、4 津具 (芹沢 74861, 1998-8-23)、6 設楽西部 (小林 33089, 1988-7-3)。西：5 稲武 (芹沢 74878, 1998-8-23)。ただし一部の区画では、すでに絶滅しているかもしれない。県内での分布は、東三河北部の深山に限られている。

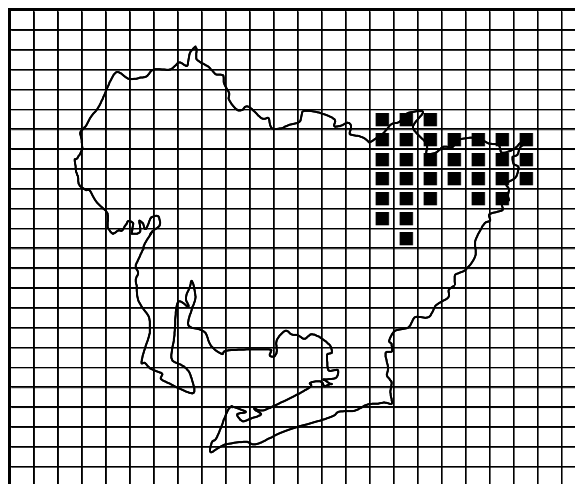
【国内の分布】

本州および四国。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

深山の沢沿いの林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

点在するがどの場所でも個体数は少なく、群生することはない。自然度の高い森林に生育しているため、かつて自然林が広範囲に伐採された時代には著しく減少したと思われる。

【保全上の留意点】

生育地の森林を保全することが必要である。

【特記事項】

果実は熟しても、がくに包まれている。

【関連文献】

保草本 I p.156, 平草本III p.94, 平新版 5 p.38, 環境省 p.496, SOS 旧版 p.78.